

日本放射線影響学会 男女共同参画ワーキンググループ

Web アンケート分析結果

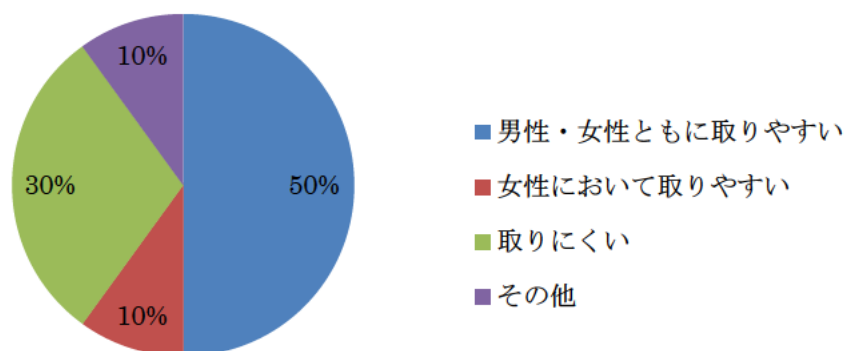
この度は、大変お忙しい中、アンケートにご回答くださりありがとうございました。みなさまより大変貴重なご意見をいただき、学会として考えるべきことは多くあると改めて認識いたしました。まずは集計結果を共有させていただき、鹿児島大会での会合や今後の活動に有効活用させていただきたいと存じます。

意見公募期間：2014/08/20－8/31

回答数：11 名中 10 名

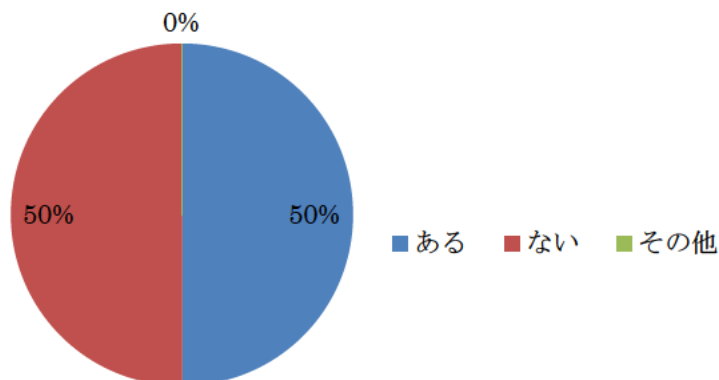
質問内容

1. 職場において、男性・女性ともに早期退勤（育児もしくは介護のため）を取りやすい環境ですか？

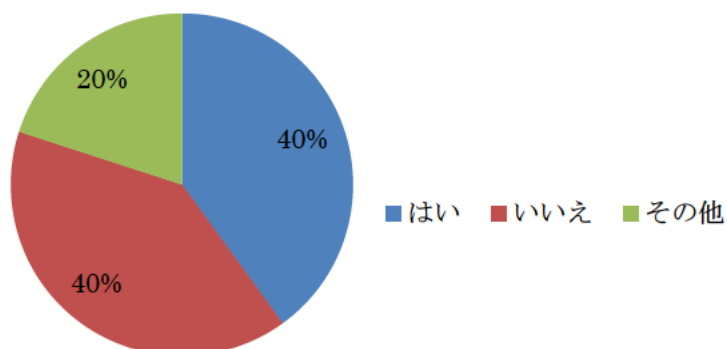


その他意見：所属部署の主宰者の方針次第

2. 産休・育休・早期退勤をとった場合に研究活動が滞らないように、何らかの支援制度が所属機関でありますか？



3. 育児・介護のため、実験ならびに会議などの研究活動を中断せざるを得なくなったことはありますか？

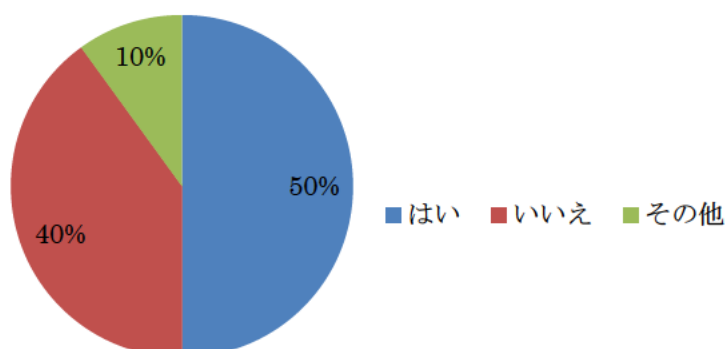


その他意見：

半日～1日くらいのレベルではあったが、長期間はない。

そのような状況になったことがない

4. 実験、会議などにおける研究活動と育児・介護の両立について困ったことがありますか？



その他意見：

そのような状況になったことがない

5. 【(4)で「はい」とご回答の方】 具体的にどのようなことがありますか（自由記入欄）

子供が急に熱を出した時、保育園や小学校から電話がかかってきて、実験（仕事）を中断してお迎えにいかねばならなかった。毎日フルに仕事の予定が入っており、代理は立てにくい。子供の発熱時には民間の病児保育やベビーシッターサービスを利用しながら乗り越えてきた。

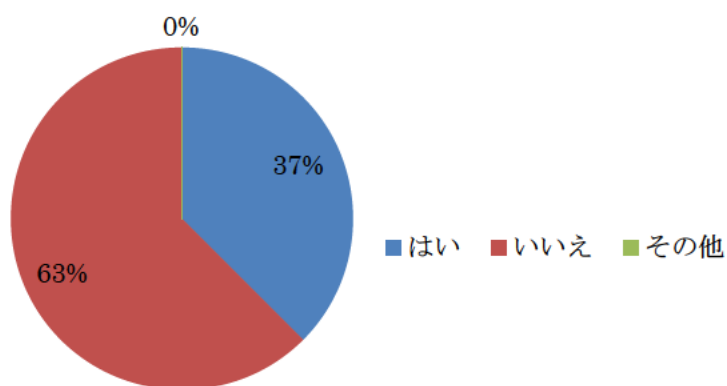
育児において急な呼び出しや迎え等で実験を中断せざる負えなかったり、実験の計画が立てにくい。また、学生を抱えているとその教育も滞るため学生を引き受けにくい。さらに、遅い時間帯の会議は参加できないことがほとんどであることから情報が遅れることがある。

講演会や会議が夕方であり、子供のお迎えの時間と重なり参加できないもしくは早退したこと（開始時刻等を考慮していただき、参加できたことも多々あります）

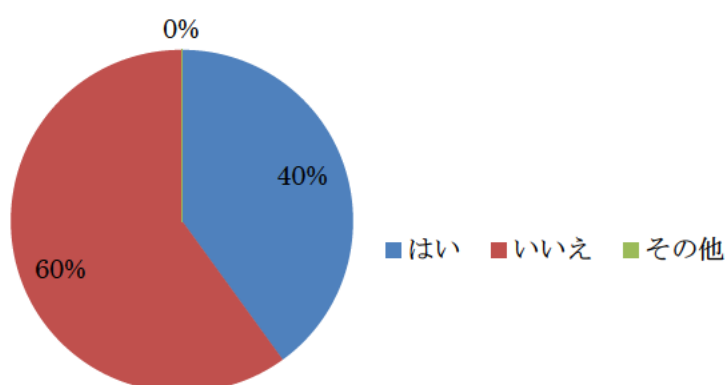
夫婦で研究をしているため、国内外の会議はどちらかしか出席できない。子供が保育園に行っている頃は一緒に連れて行くことができたのですが、小学生ともなると学校を休み事が難しい。

研究も育児も、両方を充実させるためには時間が足りない。

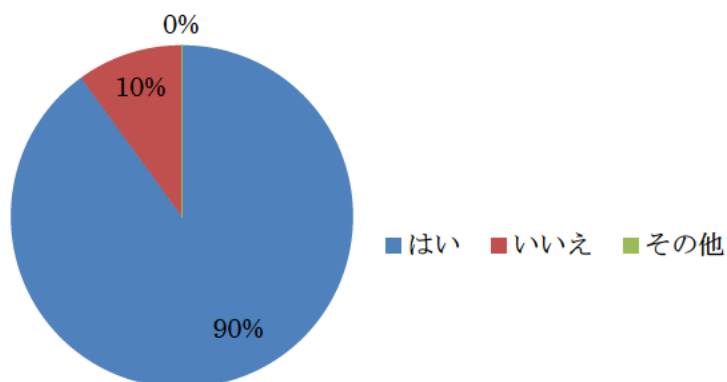
6. 【お子様をお持ちの方】 学術大会にお子様を連れて参加されるケースはございますか？



7. 育児・介護を理由に学術大会への参加を見送ったことがありますか？



8. 大会開催期間に親子休憩室、託児所、ベビーシッターの設備や制度は必要だと思いますか？



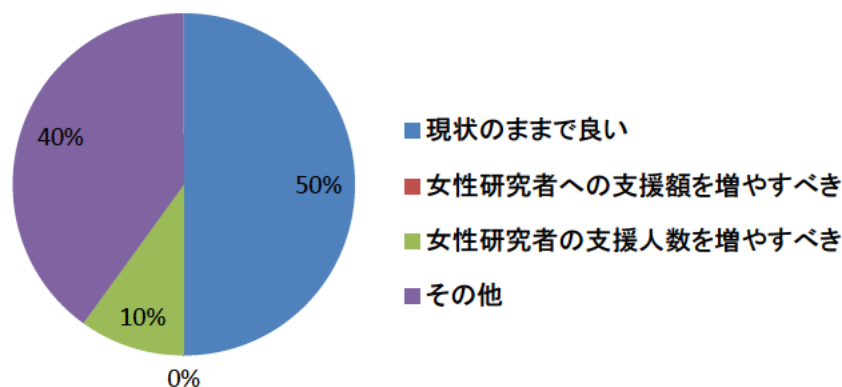
9. その他、学術大会期間で行ってほしいサポートはありますか？（自由記入欄）

スケジュールがタイトなので、学会開催期間を 2 日半ではなく、3 日半や 4 日にしてほしい。そうすることで参加する日を選べたり、朝から夕方までの長時間、子供を預けなくて済むから。

予算が確保可能であれば、学術大会期間内に会場内に一時預かり等の託児ブース、親子休憩室等の対応が有っても良い。 ・費用対効果面から、会場への設置が難しい場合、大会エリアでの同種サービス（シッターサービスを提供するホテルなど）の情報の提供を行う。 ・但し、参加者およびその配偶者が同時に大会に出席する可能性、自助努力の範囲内で対応できる可能性を考慮し、費用対効果を加味して学会としての対応を考えて行く必要がある。

若手～中堅の研究者がベテランの研究者と交流できるワークショップ（懇親会以外で）

10. 女性を支援する賞については現状のままで良いでしょうか？



その他意見：

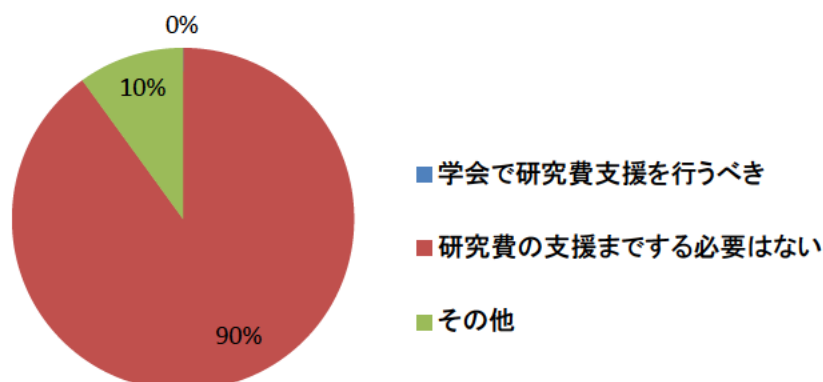
応募の目安となる基準があった方が良い。

女性を支援するのは「賞」ではなく、制度だと思います。

支援のあり方と賞の関係を一度見直す必要は無いだろうか。

女性だから・・・という措置も、そろそろ見直すべきでは？

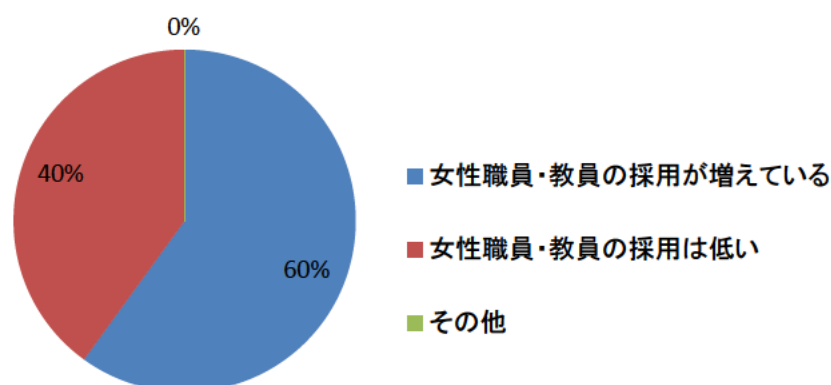
11. 学会から研究費を支援するような制度が必要だと思いますか？



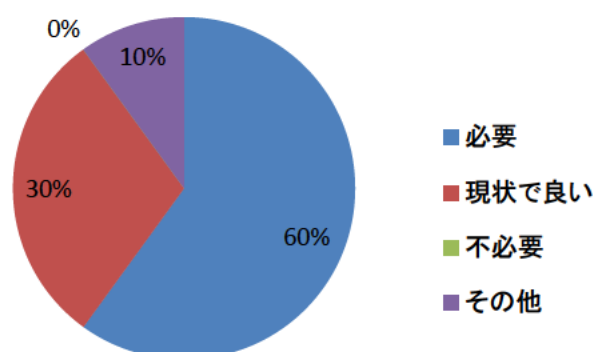
その他意見：

研究費ではなく、学術大会における育児への支援制度が必要と思います。

12. 近年、大学ならびに研究機関等では、女性研究者の登用が多く叫ばれていますが、当該分野における実態はどうでしょうか？



13. これまで当学会では女性の幹事・評議員が極めて少ないという経緯があります。今後は女性の幹事・評議員の登用が必要だと感じますか？



その他意見：

性別では無く、学会のために働いてくれる人を選ぶべき。

14. 【13 で必要と回答の方】 法人後の学術評議員を選ぶ際に女性の登用をどのようにすれば良いでしょうか？（自由記入欄）

本来は自然に女性が選ばれるようになるのが理想である。しかし、女性評議員率が 0%（0 人）である現状を打破するためには、最初の段階として（他の学会が 10%の女性理事枠を設けているのと同様に）一定割合（たとえば 10%）の女性評議員枠を設けざるを得ないのではないかと感じている。

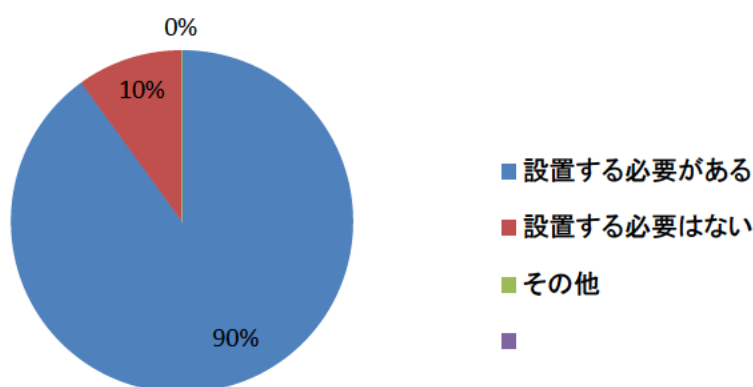
研究分野の重複が合っても例外扱いとして、重点的に女性を評議員候補リストに一定割合、選ぶのがいいと思います。

会長（理事長）指名枠があっても良いと思います。

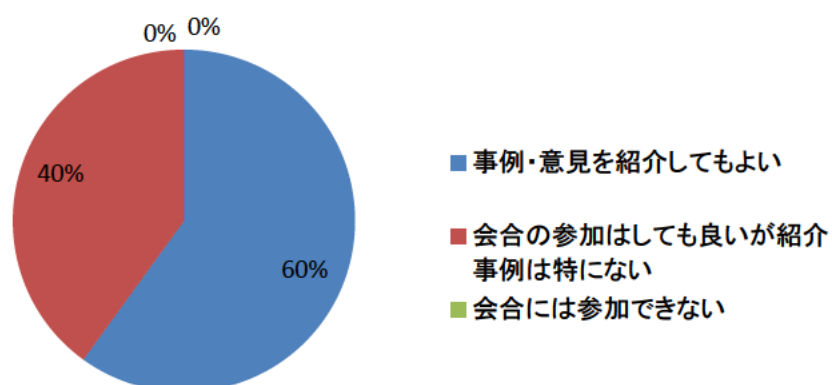
すぐには思いつきません。考えるお時間をください。

評議員などは、どうしても経験がある方を選出する傾向にあるので、経験のある女性評議員をとにかく増やすことがまずは大事なのかと思います。あまりよい方法ではないかもしれませんが、最初のうちは、女性枠をあらかじめ決めておいて、必ず女性が評議員になるようにしておくのはいかがでしょうか。

15. 法人後の運営で、他学会でも多くが設置している男女共同参画委員会を当学会にも設置する必要があるでしょうか？



16. 10月の学会において「男女共同参画WG」のキックオフミーティングを開催します。このとき、本アンケートにまつわるご自身のご体験・ご意見を簡単にご紹介いただくことは可能でしょうか？



17. 最後に学会における男女共同参画についてご意見がございましたらご記入ください（自由記入欄）

本学会は女性の割合は比較的多いと思います。確かに学会の評議委員は少なく問題とは思いますが、すぐに改善案を思いつきません。日本の社会の構造的な問題だと思います。また学会運営とは問題が異なるとは思いますが、夫婦で研究・仕事を続けるにあたり最大の問題は、どちらかが単身赴任となるケースが多いことが挙げられます。この事例については、自分も含め多くのケースを紹介できます。

夫婦で研究（キャリア）を継続するために、家庭が犠牲になっていること、これをどのように解決するかが大きな問題であると思います。
それぞれのキャリア段階や年代で様々な課題があると思いますが、「リーダーの育成（キャリア形成支援）」「様々なライフイベントとの両立支援」が2本の柱だと思います。男女でともに考え、活動していくことが重要だと思います。
これは一般的な話にもなりますが、「女性研究者のサポート」＝「妊娠、育児のサポート」という流れが多いです。しかし、女性研究者だからといって、結婚、妊娠、育児をしているわけではありませんし、逆に男性研究者も、育児休業をしたいケースもあるかと思います。女性研究者の何をサポートするのか、男女共同参画とは何を目標とするものなのかをしっかりと考えた活動が求められるのかなと思います。やみくもに女性研究者のサポートというスタイルだけを掲げる活動はあまり意味がないと思います。参考にいただければ幸いです。
福島原発事故以降、多くの一般の方が、放射線に影響を持っており、特に小さい子供を持つお母さんは高い関心を持たれていると思います。そのようなお母さんへの説明には同じく女性の研究者が行うのがいいと思いますが、放射線影響学会ではポストク以降の女性研究者に限られており、積極的に育成し、女性研究者を増やしていくことが、学会の社会貢献の上でも、必要だと思います。
本来、学術における評価は性差に関係なく公平に行われるべきものであると考えられる。一方で、日本における男女共同参画への取り組みを見ると、「女性の登用」を促進する事が強調されており、そのための環境作りは後回しになっている様に感じられる。中長期的な視点で女性支援環境を整備し、研究職を志す女性の母数を増やし、その上で学術的に正当な競争によってポストを獲得する流れが望ましいのではないだろうか。
まずは男女共同参画について他分野の活動を含めて学ぶ機会が必要だと思います。
この問題に関する学会員の意識の向上と学会活動における男女共同参画の実現を推進し、この活動を通じて学会が活性化することを期待しています。是非、「男女共同参画委員会」を当学会にも設置していただければと思います。

分 析

学会の男女共同参画に対して非常に真剣にお考えいただき、ありがとうございました。環境・職場によって男女共同に対する意識は異なるものの、休みや退勤が取りにくい状況まではなさそうであり、その手当もある職場もありそうです。ただし、お子様をお持ちのご家庭では、やはり急な対応があること、夫婦共働きでのご苦労も垣間見えます。学術大会にお子様をお連れする方もいらっしゃる、学会として託児スペースや宿泊施設の推薦などの準備が可能であれば会員にやさしい会になりそうです。女性への支援については、社会的な情勢から採用についてはある程度進んでいるようです。学会に対してはこれまでの支援の評価がある一方、女性支援の制度のあり方については見直していく余地もありそうです。そのためにも理事・学術評議員に女性研究者を増やすことも必要であり、男女共同参画委員会を設置して継続的に考えていくことが重要であると感じました。ただし、そのあり方としては、形式的なものではなく、実例や現場の声を反映できる体制とする工夫が必要に思います。いただいた多数の貴重なご意見は今後の活動の参考にさせていただきたく思います。誠にありがとうございました。